

# 主要建設コンサルタントの代表的な取り組み

大日本  
コンサル  
タント



小泉大橋起点側土工部

## 地震復旧調査設計を受託

大日本コンサルタントは、発災直後に宮城県気仙沼市で、南地区の地震復旧対策調査設計業務を受託し、国道45号の被災調査を行った。また、同市の鹿折と南気仙沼地区の住宅地計画検討業務を実施し、土地区画整理事業の前段となる土地利用方針や事業手法を検討した。さらに、気仙沼湾を横断する斜張橋や、大島架橋の詳細設計など、同市の海上橋梁の設計はほとんど同社によって行われた。

同市だけでなく、一般道路の改修や堤防のかさ上げ、農地復旧、住宅地の造成などが同時に工事に入っているため事業が集中し、それらの調整にも配慮するとともに、スピードが要求される中での作業だった。

震災の経験により、社内的にはBCP（事業継続計画）の重要性を認識し、整備を急いだ。また、事業促進PPPやCMR（コンストラクション・マネジャー）などを経験し、発注者のマネジメント的な領域に役立てることを証明したことによって、今後業務が縮小しても、仕事に対するかかわり方を増やして、建設コンサルタントを維持していかなければならないとしている。

今後の地域の創生に向けては、インフラはほぼ整備され、時間の経過とともに形はできあがるとしながら、地域の人々が何をしていくかが一番の問題と提起する。それぞれの地域が特徴を生かし、観光を含めた交流人口でまちを活性化していくことが必要と指摘。

「復興に携わっていた人々を相手にしていた第3次産業を、交流人口に切り替えるきっかけづくりが何よりも大切」とし、その魅力はあると明言する。